

自治体間交流を活発に続ける秘訣 ～フランス・ナント市と新潟市の交流から～

パリ事務所

ラ・フォル・ジュルネ音楽祭¹の発祥の地として有名なフランス西部ナント市²は、2009年から新潟市と姉妹都市を結んでいます。市内には日本庭園があり、2011年3月の東日本大震災の際は、被災地支援の活動を直ちに始めるなど、日本との心理的な距離が特に近い印象を受ける都市です。



両市の公式な姉妹都市の歴史は短いものの、両市の市民間の交流の歴史は1992年までさかのぼり、日仏交流イベントを年間複数開催するなど、大変活発な交流を続けています。両市の交流は日仏間の姉妹都市交流の中でも最も活発な事例の一つに挙げることが出来ます。

パリ事務所では、このナント市と新潟市のように姉妹交流を活発に続けるための秘訣をお聞きしようと、2012年6月1日(金)に、ナント市の日仏交流団体「アトランティック・ジャポン」からオリヴィエ・ドルーアン (Olivier Drouin) 氏を講師としてお招きし、職員研修を実施しましたので、報告したいと思います。

1. 講師ドルーアン氏と「アトランティック・ジャポン」について



講師 オリヴィエ・ドゥルアン氏

まず、講師ドルーアン氏と氏が長く携わってきた「アトランティック・ジャポン (Atlantique Japon)」³について紹介したいと思います。

ドルーアン氏と日本のつながりは、高校生の時に遡ります。ナント市出身のドルーアン氏は、高校留学の受入れ・派遣等を行っている民間の国際教育交流団体を通じて新潟市内の高校に1年間留学。留学先が新潟市だったことは偶然だったとのこと。その後、フランスに戻り、1990年10月にナント市で設立された「アトランティック・ジャポン」の会長を、2005年から2012年3月まで務めました。

日本語を滑らかに話し、空手をたしなむというドルーアン氏。現在、ナント市近郊に
に住み、日系企業に勤務しています。

日仏交流団体「アトランティック・ジャポン」の設立時の目的は3つ。①ナント市と
日本との交流を増やすこと、②パリの日本食材店に食料品を共同注文すること、そして、
③ナント市で日本についてのイベントを主催しみんなで楽しむこと。日本ともっと関わ
りたい、味わいたい、楽しみたい、という他者と交流するための自然な感情が、団体の
設立の源です。

「アトランティック・ジャポン」はその設立以来、音楽、ダンス、展示会やイベント
での交流等、様々な分野にまたがる交流を続けてきました。

また、同協会は、新潟の「新潟・フランス協会」⁴と、2008年に姉妹協会協定を結
んでいます。ナント市の「アトランティック・ジャポン」の設立とほぼ同じ時期、19
91年に設立された「新潟・フランス協会」は、1992年に、在京フランス大使館の
仲介によりナント市を訪れ、「アトランティック・ジャポン」のメンバーと一緒にナント
市とその周辺を観光、ナント市役所でも歓迎を受けました。これをきっかけにこの二つ
の協会間で交流が始まったとのことでした。

2. ナント市と新潟市の姉妹都市提携について

ナント市と新潟市は、2009年1月に正式に姉妹都市提携を締結しました。それ以
前から、両市に存在する民間の交流団体同士で交流が始まっていたことは、既に述べた
とおりです。

ナント市役所は1993年頃から日本との交流を進めたいという考えがあったよう
ですが、1999年6月にまず、パートナー協定に署名し、最終的に2009年1月に姉
妹都市を正式に提携するに至りました。約20年間の、お互いを知りたい、味わいたい、
楽しみたいという好奇心が原動力となった民間団体を介した市民交流が、最終的に、姉
妹都市提携という形で実を結んだと言えるのではないのでしょうか。

正式に姉妹都市の提携後には両市の交流は、お互いの施策を学び合うための職員の相



ナント市のシンボル ブルターニュ大公城



ナント市のヴェルサイユ島公園内に
ある日本庭園

互派遣にまで広がっています。

3. 交流を活発に続ける秘訣

では、ナント市と新潟市が交流の分野を広げながら、約20年もの間、活発に交流を続けることが出来た秘訣はどこにあるのでしょうか。

ドルーアン氏からは、この秘訣と言える要素を、次の4つの項目に分けて説明していただきました。

この中でも交流発展要因の一つ、「市民の安定性」とは、市役所の交流担当職員が長く同じポストに就いていることに加えて、両市はそれぞれ居住期間の長い住民が多いのではないかとおっしゃっていました。

① ベースとなるもの

協会を基盤とする友情に基づく人間関係
ボランティアの方々の尽力
両市民の新しい発見と文化体験を追求する姿勢

② 連携項目

ガストロノミー（美食）
ワインと日本酒
生活の楽しみ方

③ 交流発展の要因

市民の安定性
アーティスト同士のつながり
継続的なイベントの実施



パリ事務所での研修の様子

④ 容易にするその他の要素

両市の規模が似ていること
それぞれの首都からのアクセスの利便性
両市に多くの類似点があること（港町であること、川があること）

4. 交流についてのSWOT分析

また、ドルーアン氏は、交流を継続するという目的を達成するための戦略について、SWOT（S（強み）、W（弱み）、O（展望）、T（脅威））という4つの指標を用いて、分析をしています。

ドルーアン氏の、姉妹交流に関するSWOT分析表

<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none">○ ボランティアのネットワーク○ 20 年の交流の歴史○ 両市の共通点○ 日仏の継続的なイベントの存在○ 市役所の支援	<p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none">○ ボランティアの活動時間が限られている○ ボランティア活動の質○ 両市の距離
<p>【展望】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 市民に文化を体験してもらい、興味を広げてもらうこと○ 人と人との新しいつながりを作る○ 継続的イベントの開発○ 商業的な交流	<p>【脅威】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 市民を失望させること

ナント市と新潟市の交流の「強み」は、人と人のつながりと両市の共通点であることは間違いありません。

また、ドルーアン氏からは、「弱み」の一つである両市の距離を縮めるために、協会メンバー間で Facebook のグループ機能の活用を始めたとの話がありました。Facebook をはじめとするソーシャルメディアの活用は、物理的距離のハンデを克服するために、とても有効なツールと言えるでしょう。

5. まとめ ～交流を長く続けていくために～

講演に引き続き意見交換では、日本酒に関するフランス人の嗜好について、日本酒好きのドルーアン氏に対する質問が出るなど、リラックスした雰囲気の中で会話が弾みました。

ナント市と新潟市の連携項目の一つにも、ガストロノミー、ワインと日本酒が挙げられていますが、自治体間交流においては、特にフランスのお国柄もあるのでしょうか、味わうこと、つまり食の分野でのお互いに対する好奇心と交流は、両市の距離を縮めるために欠かせない要素であると言えそうです。

マンガ、アニメ、武道、日本語学習など、フランス人、特に若い世代に人気の高い日本文化をテーマにした行事を盛んに実施していることは、絶えずナント市の若者に交流に参加を促し交流の継続性の向上に大いに貢献していると思われます。

また、ドルーアン氏が繰り返し強調されていたことは、人と人とのつながり、お互いを知りたいという好奇心、それと郷土愛の強さ。これらの要素から自然に生まれた市民の間での交流が、正式な姉妹都市締結に結実したと言えるのではないのでしょうか。その

後も、市役所がバックアップしつつ市民交流をベースとした活発な交流につながっているとの印象を強く受けました。

このような好奇心は異文化交流の第一歩と言えるでしょう。この好奇心から始まる両市のような交流が多く生まれることを期待しつつ、パリ事務所は、国境を越えた自治体間交流を引き続き支援していきたいと思っています。

(小林所長補佐 東京都派遣)

-
- ¹ ラ・フォル・ジュルネ音楽祭：ナント市で、1995 年から実施されているクラシック音楽祭。毎年 1 月下旬から 2 月上旬に開催される。毎回テーマとなる作曲家またはジャンルを設定し、朝から晩まで複数の会場で、コンサートが行われる。第 18 回目となる 2012 年の音楽祭では、284 の有料のコンサートに、15 万 2 千枚のチケットを販売。その成功により、現在では世界各地でこの名前を冠する音楽祭が開催されている。日本では、新潟市を含め 5 都市で開催。
 - ² ナント市 (Nantes)： フランス西部、ペイ・ド・ラ・ロワール州の州都であり、ロワール・アトランティック県の県庁所在地。人口は約 28 万人。フランスの地方行政において大きな役割を担う都市共同体レベルの人口は、約 58 万人。
 - ³ 「アトランティック・ジャポン」ホームページ <http://atlantique-japon.fr/>
 - ⁴ 「新潟・フランス協会」ホームページ <http://www.anfrance.com/>

